様式 C-19

科学研究費補助金研究成果報告書

平成 23 年　6 月　6 日現在

機関番号：１２６０１
研究種目：特定領域
研究期間：２００５～２００９
課題番号：１７０８３００４
研究課題名（和文）歴史書編纂と王権理論に見る東アジア３国の比較
研究課題名（英文）Comparison of the three East Asian nations as seen from the compilation of official histories and theory of sovereignty
研究代表者
小島　毅（KOJIMA TSUYOSHI）
東京大学・大学院人文社会系研究科・准教授
研究者番号：９０１０５７１９

研究成果の概要（和文）：中国の『宋史』、朝鮮の『高麗史』、日本の『大日本史』の三つの歴史書における王権理論を比較検討することを通じて、これら東アジア三国における朱子学の役割の異同を検証した。具体的には、水戸学の発展において中国史・朝鮮史の認識がどう作用したか、および１３～１５世紀における東アジア各国の政治変動が歴史認識の形成に及ぼした影響を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：We made clear how different the Cheng-Zhu school of Confucianism worked on the political aspect among the three countries in East Asia (China, Korea, and Japan), having done comparative research of those divine theories in the three books of history (*Songshi* from China, *Koryosi* from Korea, and *Dai-Nihonshi* from Japan). For instance, how the recognition for Chinese and Korean history in Japan acted on the flame work of Mitogaku, and how the political change in 13-15th centuries in East Asia influenced on formation of historiological recognition.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
２００５年度	8,100,000	0	8,100,000
２００６年度	9,700,000	0	9,700,000
２００７年度	9,700,000	0	9,700,000
２００８年度	9,700,000	0	9,700,000
２００９年度	9,700,000	0	9,700,000
総　計	46,900,000	0	46,900,000

研究分野：思想史
科研費の分科・細目：東洋史、日本史、思想史
キーワード：宋史、高麗史、大日本史、王権、礼史、朱子学、水戸学、正史

１．研究開始当初の背景

従来から、正史の解読作業は諸方面で遂行されてきた。ただし、それらは政治事件の年代記的処理、社会経済史的史料の発見と整理、文化事象の考証に偏り、官僚機構による正史編纂という事象自体が持つ意味の解明はあまり進んでいない。当該地域・時期の正史の書法を相互に比較検討することで、これまでになかった視角から王権理論について考察を行い、この方面の分析を深めることを意図してこの研究を企画した。

２．研究の目的

東アジアにおける３つの正史を選択してその儀礼記述の部分を解読し、そこに見られる王権理論を比較検討することを目的とした。

本研究では、東アジア３国における転換期を対象とした正史として中・朝・日から１つずつを選んだ。すなわち、異民族王朝である元において寧波を含む南方出身の朱子学者たちによって編纂された『宋史』、朝鮮王朝時代に明から朱子学を国教として導入したうえで編まれた『高麗史』、寧波近隣出身の朱子学者朱舜水が明滅亡により日本に亡命してきたことを機に構想され、その編纂事業自体が水戸学という学派運動を生み出した『大日本史』である。

これらを中心にその周囲に拡がる思想圏を見通しながら、比較しつつ精読することで東アジア海域における近世王権理論について考察するとともに、西洋における王権論との異同を明らかにして東アジア思想文化の特質を解明していくことを目的とした。

特に、これら３つの正史の儀礼記述の部分を解読し、そこに見られる王権理論を比較検討することを志した。それによって、本研究が狭義の思想史研究に特化することなく、たとえばナショナリズムを支える一国史観、民主主義と世襲特権との併存、近代における植民地支配への歴史評価問題など、現代社会が抱える諸問題を解決するための新たな手法を提示する視野を開くことを意図したものである。そして、本領域の名称「東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成」の思想文化的背景を解明することに貢献することを企図した。

３．研究の方法

『宋史』『高麗史』『大日本史』に関連する史料の蒐集と整理を行い、当該正史を比較検討して東アジア王権儀礼の特質を探る。

また、史料から抽出したデータの整理と分析結果の公表を中心として、領域内の他の研究項目との各種共同作業を進めて最終年度のまとめを行う。

４．研究成果

（1）『宋史』礼志の訳注作成

『宋史』の礼志は中国歴代正史のなかで、朱子学が成立した時代を扱っている点で、王権理論上注目される。すなわち、当時の儀礼は旧時代の思想を背景としているにもかかわらず、これを記録する側は朱子学の論理でこれらを整序しているからである。本研究では、以前から蓄積されていた成果にもと

づいて、礼志のうち１～４および８の５つの巻についての訳注を制作して内外の研究者に配布し、当該分野の研究進展に寄与した。

（２）『高麗史』の特質解明

『高麗史』編纂の経緯について分析するなかで、現在の韓国における研究状況の把握と『高麗史節要』との比較検討を、朝鮮史を専攻する大学院生３名の協力を得ておこなった。

（３）『大日本史』の思想史的位置づけと近代史学の成立

『大日本史』の編纂過程における朱子学的な王権理論の影響を思想史的に検討するとともに、水戸学が果たした役割についての再認識作業をおこなった。また、明治時代の近代歴史学成立時期において、水戸学的な史観がどのように超克されていったかについて、『大日本編年史』データベースの作成作業を通じて検討を加えた。

（４）相互比較と新たな視点の獲得

以上の個別検討を総合する比較作業を通じて、13 世紀から 15 世紀にかけての東アジア３国で、政治的変動にともない王権理論に大きな変化がみられること、ただし、各国それぞれの政治的・思想的背景の相違により、その具体相が異なることを実証し、今後の研究に向けた新しい視座を確立した。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

［雑誌論文］（計 35 件）

（１）、伊東貴之、李塨の立場―顔李学派の再考のために―、東洋の思想と宗教、査読無、28号、 2011、16-42
（２）、近藤　成一、東京大学史料編纂所における横断検索システムの構築Ⅱ―非横断型システムによる研究情報資源連携の試み―、 人間文化研究情報資源共有化研究会報告集、査読無、 1 号、2010、 75-78
（３）、小島毅、どう訓むかという問題の難しさ、中村春作ほか編『続「訓読」論--東アジア漢文世界の形成』、勉誠出版、査読無、2010、133-142
（４）、近藤成一、中世日本の国制と分権社会、　近藤成一・小路田泰直・デトレフ・タランチェフスキ・ローベルト・ホレス編『中世　日本と西欧―多極と分権の時代―』、吉川弘文館、査読無、2009、32-50
（５）、伊東貴之、中国近世思想史における個と共同性・公共性、中国哲学研究、査読有、24 号、2009、55-97
（６）、山内弘一、朝鮮王朝後期の宗族制度の確立と祭礼説―四大奉祀と不遷の位をめぐって--（其の二）、漢文學解釋與研究、査読無、第１０輯、2008、55-84
（７）、陶徳民、国粋主義と中華崇拝を超えて--五井蘭州『百王一姓論』の再評価--、東アジア文化交渉研究、査読無、1 号、2008、61-77
（８）、小島毅、日本漢文の訓読とその将来、中村春作ほか編『「訓読」論--東アジア漢文世界と日本語』、勉誠出版、査読無、2008、277-294
（９）、山内弘一、朝鮮王朝における儒教的婚礼の普及について－両班知識人の新迎論との関連から－、上智大学文学部史学科編『歴史家の散歩道』、上智大学出版、査読無、2008、199-224

(10)、保立道久、東アジアにおけるアーカイヴズの共有と歴史学、 アーカイヴズ、査読無、31号、2008、85-91
(11)、保立道久、大袋と袋持、黎明館調査研究報告、査読無、21集、2008、135-146
(12)、小島毅、人格の完成--王陽明のなかに安岡正篤が見たもの--、陽明学、査読無、20号、2008
(13)、山内弘一、星湖李瀷と文明の化、上智史学、査読無、52号、2007、67-98
(14)、保立道久、網野善彦氏の無縁論と社会構成史研究、中世史研究、査読無、32号、2007、49-72
(15)、小島毅、理気世界観は何を説いたか、総合人間学叢書、査読無、４号、2007、29-38
(16)、山内弘一、十八世紀朝鮮王朝への天主教（カトリック）の伝来について、キリスト教文化・東洋宗教研究所紀要、査読無、25 号、2007、37-46
(17)、伊東貴之、明清思想をどう捉えるか、奥崎裕司編『明清はいかなる時代であったか』、汲古書院、査読無、2006、144-183
(18)、陶徳民、内藤湖南における進歩史観の形成――章学誠『文史通義』への共鳴、アジア遊学、査読無、93 号、2006、203-216
(19)、陶徳民、晩清時代に於ける儒教とキリスト教の交渉――王韜の西洋受容の契機と姿勢――、『中国学の十字路―加地伸行博士古稀記念論集―』、査読無、2006、339-351
(20)、近藤成一、鎌倉幕府と公家政権、宮地正人ほか編『国家史』、山川出版社、査読無、2006、144-183
(21)、 山内弘一、朝鮮王朝後期の宗族制度の確立と祭礼説、漢文学--解釈與研究、査読無、９輯、2006、59-94
(22)、小島毅、朱子学事始――武士の理想像の変容、小島毅編『義経から一豊へ』、勉誠出版、査読無、2006、66～79
(23)、保立道久、義経と渡海した僧侶たち、小島毅編『義経から一豊へ』、勉誠出版、査読無、2006、14-23
(24)、近藤成一、万世非一系の論理、小島毅編『義経から一豊へ』、勉誠出版、査読無、2006、50-61
(25)、山内弘一、朝鮮儒教と書院（其三）、漢文学--解釈與研究、査読無、８輯、2005、93-116

［図書］（計 11 件）

（１）、保立道久、洋泉社、かぐや姫と王権神話 --『竹取物語』・天皇・火山神話、2010、254
（２）、小島毅、陶徳民、保立道久、近藤成一、山内弘一、伊東貴之、復旦大學出版社、東亜的王権与政治思想 ： 儒学文化研究的回顧与展望、2009、235
（３）、陶徳民、関西大学出版部、明治の漢学者と中国―安繹・天囚・湖南の外交論策―、2007、320
（４）、小島毅、講談社、近代日本の陽明学、2006、231

６． 研究組織

(1)研究代表者

小島　　毅（KOJIMA TSUYOSHI）
東京大学・大学院人文社会系研究科・准教授
研究者番号：90195719

(2)研究分担者

保立　道久　(HOTATE MICHIHISA)
東京大学・史料編纂所・教授
研究者番号：70092327

近藤　成一　(KONDO SHIGEKAZU)
東京大学・史料編纂所・教授
研究者番号：90153717

山内　弘一　(YAMAUCHI KOICHI)
上智大学・文学部・教授
研究者番号：40166575

陶　　徳民　(TAO DEMIN)
関西大学・文学部・教授
研究者番号：40288791

伊東　貴之　(ITO TAKAYUKI)
国際日本文化研究センター・教授
研究者番号：20251499